

新宮山彦ぐるーぷ第1907回
持経宿のトイレに腰掛便座据置と

平治宿水場径及び水槽点検整備など

◇実施日：平成28年11月20日(日) 晴後時々曇り

◇参加者：川島 功、沖崎吉信、濱野兼吉、野間 清・愛ご夫妻、
山川治雄、青木宏充(前夜車中泊)、梶野照雄。 8名。

昨日の雨も上がり爽やかな青空である。オークワ有馬店で入会
したいと初参加の山川氏(東紀州ノーマウンテンの会)と合流する。
熊野市飛鳥経由は久しぶりで、飛鳥に入ると朝霧がたちこみ視
界が良くない。この地では、冷え込み天気が良い日になると、朝
霧・朝靄が発生する時節特有な現象である。

池原スポーツ公園に到着すると、堺市5時半に家を出た梶野氏
が待機。昨夜、此处で車中泊した青木氏は、昨日震度3〜4の地
震があり、林道路面への落石等除去すると先行されていた。

木々の紅葉も散り、林道へ敷いたような路面を走行すると共に
落葉した梢こしに石ヤ塔等の風景が良く見える様になった。



朝靄の山並み



持経宿着



持経宿から平治宿へ

持経宿では、不動堂に幟が立ち、路面の落石等を取除いて下さ
った青木氏に出迎えられる。

久しぶりの野間ご夫妻と山川氏の自己紹介があり、沖崎氏から
持経宿のトイレ和式便器を腰掛便座に据置く作業班は川島、梶野
氏。後の6人は、平治宿の水場径点検と水槽底浚え作業班に分れ
た。

腰掛便座を既存和式便器の排出口に合わせると、座って用を足
すと丈の大きい人は、足がつかえそうになり窮屈な姿勢となる。

川島は、トイレを前側に拡げる材を宿内梁上と昨夏改築の際の
古材置場(林道尾根三叉路)を捜すことに。

この間に、梶野氏は発電機を作動させ便座を固定する為、ドリ
ルで舗装面にビス留め穴を明けて据付け作業をされる。

トイレを拡幅するには、少なくとも長さ2mの材が3本要る。
宿内梁上には、使えそうな材があるが本数が足りない。

古材置場には、現在のトイレ柱と同径(10cm角)の柱が3本見
つかる。なんかとか「人で引張り出すと、下端が一部腐っている。

天井板迄2m必要であるが、現在の扉高さと同等の長さでも良
い事から、長さ185cmに鋸で切り揃えると腐朽部が切除され使え
そうだ。只、1本抜き板を通す穴跡がどう使っても見える。



既存和式便器



腰掛便座を据置



トイレ拡幅の柱調達

腰掛便座は、ビス穴4箇所留めで、意外と早く据付作業を終えた梶野氏は、11時過ぎに水場の点検と水汲へ。
トイレ拡張には。ボルト等の金具と電動具が必要であり、次回になる。尚、トイレは狭いが使用可能である。

柱3本を切り終えた頃に、水場から梶野氏が戻り二人で昼食。
昼食後、梶野氏は焼却炉でトイレ使用済紙と落葉等を焼却、川島氏は樋網上の落葉を掻き落とし、炊事場周りの落葉を掻き出して焼却炉側の斜面に掃き落とす。

13時過ぎに平治宿班に無線で連絡をとると、中又尾根分岐を過ぎたとの事、梶野氏は掃除機で宿内を掃除し、お湯を沸かして平治宿班の戻りを待つ。

平治宿の水場径点検と水槽底浚え作業班の沖崎氏・濱野氏・青木氏・山川氏・野間夫妻は、ミズナラやもみじ・朴時々ハリギリの葉が落ちる道を、野間愛の熊避けの鈴が鳴る中、平治宿まで歩行了した。



千年檜前にて



落葉一杯の水槽



水を汲み出し底浚え

到着後、沖崎氏と野間愛は、新年を迎える準備として宿内の雑巾がけや備品の確認等を行った。

青木氏・濱野氏・山川氏・野間は、水場径の点検と改修を行っ

た。

特に水場付近は足場も悪く、手すりとなる木の状態も悪いことから、鋤簾を使って径を整備するとともに、ロープの張り直しを行った。同時に青木氏は水槽底浚え作業を行った。

予期せぬ作業が生じ、十分な道具を持っていかなかったことが、反省点として挙げられる。



鉄箱水槽底浚え完了



水場径の整備改修作業



作業を終え平治宿に戻り、清掃を終えた宿内で昼食をとった。
ここでは、山川氏のこれまでの活動や青木氏の話題提供で楽しい食事をする事ができた。

野間からは、「いつ頃から熊は冬眠するのですか」との問いに、山川氏は「積雪があまりない所では冬眠しない」の回答に驚くと共に、「鈴だけではどれほどの効果があるかわからない、私は爆竹を持って行くんや」他の方からは、「海外の熊よけスプレーは有効かもしれない」といったアドバイスがあった。また、熊目撃情報はあるが、実際の映像はない。何とか撮影したいといった会話もあった。

楽しい話題で時間を忘れていたため、急いで持経宿へ戻った。



本日の作業参加者



下山前宿内で小休止



下山準備

全員揃った時点で本日の作業参加者の記念撮影。
宿内に入り差し入れのお菓子と林檎で小休止。お湯を沸かした
が残念ながら備蓄コーヒー切れだ！



持経宿下山前



梶野車・パンク・タイヤ交換



しもまるギヤラリー喫茶

雲が広がりだし下山する。10分程下った地点で梶野車が停
車、今年9度目のパンクだそう。タイヤ交換は手馴れたもの
で、5分強でタイヤ交換が終わる。パンク回数と手早さに二度
ビックリ。

池原スポーツ公園駐車場に無事帰着。公園入口にある下北山
村観光案内所「しもまるギヤラリー」で百円コーヒー喫茶に立
寄ってくつろぎ、流れ解散となる。

新宮組は帰路、北山村七色に在る実利行者の石塔碑は、流失
後の発見者・赤根氏から所在地を聞き確認したという沖崎氏に、
川島が探したが分らず案内して欲しいと頼み立寄った。

七色ダム下流500mの「渡」と言う所の公園の行止まり、
立派な石垣の民家前の平地の川岸に在ったが、かなり草が生い
茂り、民家の1人暮らしの88歳・白髪のお婆さんが出て来て
教えられる。

七色ダムの完成(1965年:540年)以前は、七色の瀧と呼ばれた
筏師の難所で、犠牲者も出していた。

筏師連中は330m間の岩を削る改修工事を完成させた記念
と犠牲者の冥福を祈る為、実利行者を招いて護摩を炊き祈祷し
た。又、鎮魂のため高岩と呼ばれ所に「南無阿弥陀仏」と「磨
崖仏」を刻んだとのこと。

この時建立された社殿(明治5年:1872年)が、経塚、地元では
行者様と呼ばれ、ダムが出来るとは、毎年1月15日に祭が行
われていた。

平成6年の台風26号で跡形なく流失したが、ご神体の石塔
が見つかり再建、しかし平成23年8月の台風12号で再流失。
平成25年6月に地元竹原出身の赤根氏が、ご神体の石塔を
発見し、現在の川岸に石塔碑のみ設置された。

ご神体である石塔の正面には、梵字の下に「妙法蓮華経塚」
左下に實利と花押、左横に明治五年、願主・筏連と刻まれている。

此処は、渡し場のあった所で、対岸中洲の七色の瀧があった
辺りの岩に磨崖仏がある様だ。山川さんは、以前三重県側から
降りて、消えかけた磨崖仏を見た記憶があるとのこと。一度確
認に訪れたい。



實利行者の経塚石塔

その後、神川町・熊野市井戸経由で、有馬の山川さん宅まで送り帰新した。

行動タイム

新宮 7:20→8:35 池原スポーツ公園 8:50→9:35 持経宿 10:15→
11:10 平治宿 12:40→13:35 行仙宿 14:30→15:15 池原スポーツ公
園(しもまるギヤラリー喫茶 15:40)15:45→16:05 北山村七色・渡
の公園(実利行者経塚石塔)16:15→17:15 新宮。

(写真青木・梶野・濱野・川島。 記；野間 清、補足川島)